

教育課程研究指定校事業実施計画書（平成 29 年度）  
**— 研究課題 1 高等学校 —**

都道府県・指定都市番号	43	都道府県・指定都市名	熊本県
-------------	----	------------	-----

公立 ・  私立 ・  国立 （○で囲む）

1 研究指定校の概要

ふりがな 学校名	くまもとけんりつやつしろのうぎょうこうとうがっこう 熊本県立八代農業高等学校				ふりがな 校長氏名	ちょう かおる 丁 薫
所在地	〒869 - 4201 熊本県八代市鏡町鏡村 1 2 9 電話 0965-52-0076 FAX 0965-52-5048 E-mail yatsushiro-ah@pref.kumamoto.lg.jp					
設置する 課程 (H29.4.1見込)	全日制				(H29.4.1見込。臨時的任用の者は常勤の者のみ含む) 教員数 49 名	
生徒数 (H29.4.1見込)					[調査研究にかかわる教科等の教員数] 20名	
学科名	1年	2年	3年	4年	計	
園芸科学科	23	15	9		47	
食品科学科	20	32	32		84	
農業工学科	15	13	7		35	
福祉家庭科	10	24	24		58	
特記事項						

2 研究主題等

教科等名	農業	教科課題番号等	1
学校における研究主題	将来の地域を支えるスペシャリストを育成するための 系統的な農業学習の展開に関する研究 ~わかる・できる・魅力ある農業教育の実践~		

3 平成 28 年度の成果と課題

(1) 成果 ①発表シートによる発表方法の簡略化は、プロジェクト学習の流れを理解させることや「表現力」を高めるための意識付けに繋がったが、到達状況は現在検証中である。 ②意欲的に取り組む生徒には設定目標を選択する機会があることでより深い学びに繋がる。 ③目指すスペシャリスト像として必要な力を身に付ける取組では、「レタスが発芽しない」という失敗からレタスが明発芽種子であることを体験的に理解した。また、一連の栽培から販売までを体験することで、計画や栽培する植物に関する基礎知識の大切さに気付くきっかけとなった。 ④活動日誌の検討では、「実習中に新たな発見をしようと観察するようになり、実習が積極的になった」、「メモをとる機会が増えたので習慣にしたい」、「自己評価の時に実習を振り返るので大事なことを忘れなくなった」と生徒も回答した。 ⑤年間学習計画、シラバスの見直しでは、他科目での指導内容を意識するようになり、科目の連動性と系統性を考えるようになった。 ⑥学校ホームページによる研究の情報発信を行なった。
(2) 課題及び対応 ①使用した発表シートは、プロジェクト学習の研究目的と表現力に関する目標を併置したことで生徒が混同しやすい状況があった。また、普段の授業においても発言する機会を多くする工夫の必要がある。 ②設定目標を選択させる取組は、安易な目標設定にならないか等の課題が残った。目標を一つか二つに絞る。

- ③目指すスペシャリスト像として必要な力を身に付ける取組を各学科・学年で検討し、より系統的な学習を展開する。
- ④活動日誌は、各学科で適した形で「メモ欄」等を導入する。合わせて「メモをとる」習慣を身に付けさせる。
- ⑤年間学習計画、シラバスを見直し、ロードマップ等と合わせることで連動性や系統性をより高める。
- ⑥学校ホームページによる研究の情報発信を充実する。

#### 4 平成29年度の研究計画

##### (1) 本年度の研究の重点等

- ①プロジェクト学習用発表シートの簡素化、プロジェクト学習の目的と表現力に関する目標を記載する用紙の工夫
- ②目標や目的等を明確にしたテーマ設定とプロジェクト学習の展開
- ③より発展的なプロジェクト学習の取組や地域の教育力を生かした授業実践による思考力・判断力・表現力の育成
  - ア 経営感覚の醸成、食品製造や農業土木・機械に関する知識・技術の習得及び応用に関するプロジェクト学習
  - イ 関係機関との連携をはじめ、人材活用など地域の教育力を生かし、科目の内容を発展させた実践的な学習を取り入れる。
- ④活動日誌の記入と考察及びメモの活用等による思考力・判断力の育成及びファイルリングの方法、ポートフォリオ評価の導入
  - ア 年間振り返りシートの作成
  - イ ポートフォリオ作成に関するマニュアル作成
  - ウ 各科目のポートフォリオ評価から農業学習全体のポートフォリオ評価へのアプローチ
- ⑤育成するスペシャリストや身に付ける力を見据えたロードマップ、年間学習計画、シラバスの作成と座学と実験実習を連動させ、系統性を高めた農業学習の展開
- ⑥関係機関への啓発活動及び学校ホームページを活用した情報発信

##### (2) 研究計画

実施時期	研究内容、研究方法、成果の公開等	期待される成果等
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 1年目の成果・課題の整理及び年間計画の作成</li> <li>② 新1年生・2年生への意識調査と目標設定</li> <li>③ 1年次の科目から2年次の科目に関連した授業展開の検証と改善</li> <li>④ 授業・実習における記録簿とポートフォリオ評価の検証と改善</li> <li>⑤ 教育課程研究指定校事業推進委員会の実施による課題の把握と共有</li> <li>⑥ 指導方法・評価規準の検討と改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現状の把握と目標設定</li> <li>○全校生徒・全職員への周知と意識づけ</li> <li>○1年次に学ばせた専門科目との関連づけと、興味・関心の養成</li> <li>○生徒自らが力をつける学習場面の設定</li> </ul>
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 教育課程研究指定校事業推進委員会の実施による課題の把握と共有</li> <li>② 指導方法・評価規準の検討と改善</li> <li>③ 研究事業まとめに向けた検証と今後の活動の確認</li> <li>④ 成果報告及び情報発信 ・地域及び関係機関に向けた成果発表会（公開、発信）</li> <li>⑤ 意識調査と取組の評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現状の把握と軌道修正</li> <li>○専門科目の系統的な展開</li> <li>○座学と実験・実習が連動した効果的な学習指導の展開</li> <li>○言語活動を含めた能動的な学習指導の展開</li> <li>○学習記録簿（ワークシート）の完成</li> <li>○適切な評価と系統的な指導の一体化</li> <li>○事業成果の普及</li> </ul>

3 学期	①研究のまとめと記録簿の整理 ②2年間を通した研究事業の検証 ③報告集の編集及び発行 ④文部科学省への報告 ⑤関係機関への啓発活動及び学校ホームページを活用した情報発信	○事業記録の整理・保存と活用 ○事業のまとめによる指導方法の検証 ○モデルの共有による多校種での実践
------	--	--

## 5 研究のまとめの見直し

- (1) プロジェクト学習用発表シートの簡素化, プロジェクト学習の目的と表現力に関する目標を記載する用紙の工夫
- 〈検証方法〉
- ①口頭試問 ②表現力に関する事前・事後アンケートや感想
- 〈期待される成果〉
- ①取組んだ内容, 結果, 考察等を言うことができる。  
 ②事後アンケートで平均3点台(4段階中, 上から2番目)
- (2) 目標や目的等を明確にしたテーマ設定とプロジェクト学習の展開
- 〈検証方法〉
- ①平成28年度の発表内容との比較 ②目標の到達状況
- 〈期待される成果〉
- ①分かりやすい結果で生徒が「できた」と達成感を得る  
 ②全員が目標を達成
- (3) より発展的なプロジェクト学習の取組や地域の教育力を生かした授業実践による思考力・判断力・表現力の育成
- 〈検証方法〉
- ①事前・事後アンケートや授業評価アンケート  
 ②プロジェクト学習の取組, 感想やポートフォリオ評価の記述
- 〈期待される成果〉
- ①事後アンケートで平均3点台(4段階中, 上から2番目), 満足度の高い授業評価  
 ②様々な失敗から工夫して得た知識や技術を表現できる。
- (4) 活動日誌の記入と考察及びメモの活用等による思考力・判断力の育成及びファイルリングの方法, ポートフォリオ評価についての検討・導入  
 科目「農業と環境」で播種に特化した授業を展開し, 「思考力・判断力・表現力」を育成。
- 〈検証方法〉
- ①播種に関する事前・事後アンケート ②活動日誌やポートフォリオの記述内容
- 〈期待される成果〉
- ①事後アンケートで平均3点台(4段階中, 上から2番目)  
 ②振り返りシート等で「播種時期」, 「発芽適温」, 「直播か育苗」等の播種方法について具体的に表現できる。
- (5) 育成するスペシャリスト像として身に付ける力を見据えたロードマップ, 年間学習計画, シラバスの作成と座学と実験実習を連動させ, 系統性を高めた農業学習の展開
- 〈検証方法〉
- ①関係職員のアンケートや意見交換  
 ②事前・事後アンケート, 授業評価アンケートや進路希望調査
- 〈期待される成果〉
- ①学科の特性を踏まえ, 3年間を見据えた指導計画を職員で共有できる。  
 ②授業に対する関心意欲が高まり, 進路決定へ向けた意欲が高まる。
- (6) 関係機関への啓発活動及び学校ホームページを活用した情報発信
- 〈検証方法〉熊本県高等学校教育研究会農業部会等での意見交換
- 〈期待される成果〉取組のモデル化と他校での実践